

佐賀県内の地域資源である、諸富木工と有田焼のコラボレーションによる県産品の製品開発を行った。

1. はじめに

過去、佐賀県窯業技術センターと佐賀県工業技術センターは共同研究に於いて、有田焼と諸富木工の異業種の組み合わせと云うテーマで鏡台の天板及び、家具の装飾用として有田焼陶板を使用した異業種交流による製品開発を行い、商品化し一応の成果を得た。しかし、近年、住宅の取り付け家具の増大、単品家具の激減によりその商品の姿は見られなくなった。

そこで地域資源の活用が叫ばれる今、有田焼の主たる商品である食器に諸富の木工技術を活用し県産品開発の実験的試作を行った。

2. 試作

・スプーン類、カップ（取手部に木使用）

金属スプーン特有の違和感、焼物スプーン単体での破損の不安感を無くすための試作



先割れスプーン



スプーン大



スプーン小



コーヒーカップ

・スイーツ皿、盃、カップ類(高台部に木使用)
木を高台に使用することによって、焼物単体で
得ることのできない新しい形状の試作



スイーツ皿円錐高台



スイーツ皿半円高台



盃



コーヒー碗



カップ各種



フリーカップ

・蓋物（蓋部に木使用）

焼物の蓋物特有のガチャガチャ感の解消のための試作



丸 蓋物



角 蓋物

・セットとしての空間演出



スイーツセット



蒸碗セット



酒器セット

まとめ

スプーン類については、手触り感も良く使用時の安心感が得られた。高台部に木材を使用した皿、コップ等についてはシャープな形状と軽量化が得られたと共にテーブルに付く高台キズ、焼物の重ねた時に付く高台キズの解消も得られた。今後の課題としては、食器と水の関係は避けられない点から木部の耐水性、対腐食性を考慮し、強化木使用等、物理的面と木部形状のデザイン、木部と焼物の加飾の必然性が得られるような装飾のデザイン等、ソフト、ハードの両面から検討し県産品商品として確立するよう試作を重ねる。